

# きょうしつ ステップ教室だより



日野市立潤徳小学校  
令和8年2月2日  
特別支援教室【ステップ教室】

3学期は、学年のまとめの時期であるとともに、進級や進学への準備をしていく期間です。新年度への期待や希望の一方で不安な気持ちも高まることがあります。次年度への見通しをもたせることで安心して進級や進学を迎えられるように支援していきたいと考えております。

子供たちと関わる中で感じていることは、「苦手なことに挑戦すること」を、いかに実現させるかということです。うまくいかず、ついつい怒ってしまったり、すぐに諦めてしまったりすることが少なからずあるかもしれません。そこで今回は少しでも「やる気が出る」方法や声掛けの仕方を一部ご紹介したいと思います。

## 「やってみたいな」「できた！」という気持ちを大切に

### ①それをやることによって「自分が得をする」という考えをもたせる。

ステップ教室では、「これをやると、こんなことができるようになるよ。」「これをやれば、みんなから感謝されるよ。」など、「自分の得になる」言葉かけを心がけています。「やったら良いことがある」「やったら嫌なことがなくなる」の2つを考えるのがポイントです。「やらなかったら大変なことになるよ」など、危機感をもたせることは避けた方がよいです。

### ②「やりたいことリスト」と「やることリスト」を作る。

「好きなことをずっとやりたい」気持ちは、子供だけでなく、大人にもありますね。子供自身が納得して行動するために、「やりたいこと」をリスト化し、そのために必要な行動（やること）を考えます。「やりたいこと」をするためには、「やること」の大切さ・メリットを伝えていくことが大切です。その上で、限られた時間の配分と順番を一緒に考えていただければと思います。



引用・参考文献：『絵で見て分かる発達の子のための「ひとりのできる力」が身につく実行機能トレーニング』 高山恵子 著

## 前向きな言葉かけ

### 褒めっぱなし

「片づけてくれたのね、ありがとう！」に続けて「いつもこうだといいのだけど・・・。」等とマイナスイメージで終わってしまってはもったいないです。褒める時は、褒めっぱなしが大切です。

### 25%ルールで褒める

終わりまで待たずに、行動を始めたタイミングで褒めます。また、100%できたことを褒める⇒少しでも(25%)できたことを褒めるにハードルを下げてあげることで、「もっとやってみたい。」「次も頑張ろう。」等と子供の気持ちが前向きに向かっていることが多いです。

### 良い行動を褒める（計画的無視）

子供の中には、親や先生を自分に注目させたくて、好ましくない行動（大きな声を出す、ふざけるなど）をすることがあります。こういう時は、ひとまず注目しない（計画的無視）方法があります。注目されないことに子供自身が気付くと問題行動が収まる場合があります。そして、好ましくない行動をやめたらすかさず褒めます。良い行動に注目して褒めることでその行動が持続します。ただし、無視を多用することで子供の気持ちを置き去りにしてしまう場合もあるので注意が必要です。

「褒めて育てたい」と思っている、「褒めるタイミングが分からない。」「つい、叱ってしまう。」「褒めているつもりだけど、続かない。」等と簡単なことではありません。少しでも、お子さんへの声の掛け方を振り返るきっかけになれば幸いです。



引用・参考文献：『発達障害の子どもを伸ばす魔法の言葉かけ』 平岩幹男 監修, shizu 著 『ペアレントトレーニング』 上林靖子 著